

為せば成る

為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり

豊橋市立二川中学校
2年1組 学級通信
令和元年12月2日号

あなたは何をがんばりますか？



今日から、佐藤先生が療養休暇に入られました。最近、よく休まれていたので気づいていた人もいないのではないのでしょうか。「みんなのがんばりで元気になれる」というメッセージを残していきました。佐藤先生は、これから自分の体調が元気になるようがんばられます。あなたは何をがんばりますか？先日、2年生では、「働く人に学ぶ会」があり、いろいろな職業の方を招いて、仕事の内容ややりがいなどについてお話いただきました。私たち「教師」の仕事内容は見ていてわかると思いますが、「やりがい」は何でしょう。みなさんの「成長を間近で見られる」ことや、みなさんの「がんばっている姿を応援できる」ことです。ぜひ、佐藤先生のためにがんばるのではなく、自分のために何をがんばりたいか考えましょう。

読書は毎日どれぐらいしていますか!?

二川中学校では、現在朝10分間の読書を行っています。実は、二川中学校だけではなく、全国の小中高等学校で行われているものです。その始まりは古く、1988年に千葉県のある二人の高校教師の提唱で始められ、全国の学校に広がりました。わずかな時間でも、毎日続けることで「読書が好き」になり、「豊かな心」を育み、「読解力など学力向上」のほか、「落ち着いた学校生活」が送れるといった効果があると言われていました。

来年、みなさんや全国の中学校3年生が受ける「全国学力・学習状況調査」というものがありますが知っていますか。その学習状況調査の質問の中には、「1日当たりどれぐらいの時間読書しますか?」「学校図書館や地域の図書館にどれぐらい行きますか?」という質問があります。平成22年に行われた文部科学省の「全国学力・学習状況調査の分析・活用の推進に関する専門家検討会議(第17回)」の資料では、「読書好きは、学力が高い傾向にある」。「平日の読書時間は、学力が高い子は、小学校では10分以上2時間未満、中学校では10分以上1時間未満の読書」。「学力の高い読書好きの子どもは、平日の時間を計画的に使って読書の時間を意識的に生み出している」。「学力の低い長時間読書者は、テレビやゲーム等にも長時間費やしている子が多い」。「読書好きは、学力が高い傾向にある」。もしも、簡単に学力を高めたいなら、読書に親しむ環境を作り、読書好きになることが大切と言えます。

また、「脳トレ」ゲームで有名になった東北大学加齢医学研究所 所長の川島 隆太 によれば、2017年度の小学校5年生から中学3年生約4万人の「平日の一日あたりの読書時間」と「4教科(国語・算数/数学・理科・社会)の平均偏差値」を比較したところ、次のことがわかったそうです。「平日に読書を全くしない子の成績は最も悪い。」「平日に2時間以上読書をする子どもたちの成績は、平日に1~2時間読書をする子どもたちの成績よりも悪い」。つまり、「読書をする子は成績が上がる」。しかし、読みすぎは禁物。「読書時間が長すぎると、勉強時間や睡眠時間が削られてしまう」ことが理由としてあげられています。

最後に、2018年の中高生に読まれた人気の本ですが、映画化でも話題となった、住野よる著『君の隣臓をたべたい』は、中学校で2位。高校のランキングでは、住野よる氏の作品が上位1~3位までを独占し、学生から多くの支持を集めているそうです。また、恩田陸著『蜜蜂と遠雷』、宮下奈都著『羊と鋼の森』、村田沙耶香著『コンビニ人間』など、本屋大賞や芥川賞・直木賞を受賞した文芸作品も人気です。「読書の秋」にどうですか。

みんなでやる
毎日やる
好きな本でよい
ただ読むだけ